

キーパーソンが変更となり、希望である施設の看取りが出来なかった事例  
各部会提出内容

<p>本 事 例 で 達 成 で き て い る こ と</p>	<p>&lt;薬剤師部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長女が存命の間は、嘱託医、施設とも相談が出来ており施設で看取することに同意できていた。</li> </ul> <p>&lt;訪問看護ネットワーク部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所時に本人・キーパーソンに意思の確認を行なっている</li> <li>・入所時の娘の意向に沿いできるだけ通院し、急変に備え施設で看取りをする体制を整えている</li> <li>・長女が亡くなった後のキーパーソンを孫に決定しており、キーパーソンが明確になっている</li> <li>・孫に対してもこれまでの経緯を説明し、了承を得ることができている</li> <li>・キーパーソンである孫の意向で救急搬送し入院できている・嘱託医との連携</li> </ul> <p>&lt;リハビリネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所時に意思の確認ができている・急変に備え看取り介護を開始することの同意を得ることができている</li> <li>・KPが変更されているが、その都度、意思確認が行えている・施設としてできる事を全うできている</li> </ul> <p>&lt;ケアマネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看取り対応をしてもらえる施設があり、望む施設に入所することができた。・入所時に本人、長女と面談し意向の確認ができている。</li> <li>・嘱託医と相談ができ、看取りについての方針や体制について説明を受け、看取りに対する同意を得ることができた。</li> <li>・施設と長女の間で急変時や看取りまでの対応について検討することができた。（通院→看取り）</li> <li>・キーパーソンが変わっても、状況説明し同意を得ることができた。・キーパーソンの引継ぎができた。</li> <li>・本人の意思が伝えられなくても、家族が代弁者となれるようにつなげることができた。・家族の意向で救急搬送した。</li> </ul> <p>&lt;小規模多機能部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意思の確認。</li> </ul> <p>&lt;保健福祉部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人・長女の意向が確認できている。</li> <li>・入所後、状態が変わった時に嘱託医とも連携を取ながら看取りに備えての準備を整える事が出来た</li> <li>・娘急逝後のキーパーソンの決定（孫の了解済み）・本人と娘の意思確認をしている。・本人にかわり意思決定する家族を決定した。</li> <li>・キーパーソンへの経過や対応の説明。・急変に備えた看取り介護の同意。</li> </ul> <p>&lt;グループホーム部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意思確認・キーパーソンである長女の意思確認と看取りの同意・キーパーソンの変更</li> </ul> <p>&lt;施設部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看取りの方針を定める事ができた。・輸血しながらも、馴染みのある施設で過ごす期間ができた。</li> <li>・入所時、本人と娘に意思の確認が行えた。・嘱託医と連携し、通院治療の体制を整えた。</li> <li>・家族の意向に沿って病院へ搬送した。・長女急逝後、キーパーソンを孫に決めることができ、経緯を説明し了解を得たこと。</li> </ul> <p>&lt;ディネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回の輸血を行い施設での看取りを開始が出来た。</li> <li>・住み慣れた施設で過ごす期間が出来た。・キーパーソンとして孫の了解を得られ意思決定が出来た。</li> <li>・施設として出来るところまで見取りは行えている。・看取りの方針を定めることが出来た。・キーパーソンの引継ぎが出来た。</li> </ul> <p>&lt;ヘルパーネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所時に本人と家族（キーパーソン）の意向の確認が取れていた。</li> <li>・施設からの救急搬送などもあったが、施設側から看取りが行えるとも言ってもらっていた。</li> </ul>
--	--

## 看取り事例（施設②）

キーパーソンが変更となり、希望である施設の看取りが出来なかった事例

各部会提出内容

本 事 例 か ら 見 え る 課 題	<p>&lt;薬剤師部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・キーパーソンを変更すると施設で看取るという意思決定の継続が困難である点。</li></ul> <p>&lt;訪問看護ネットワーク部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・状態悪化時に最期をどこで迎えたいか本人の意思が不明確。本人の意思決定に係る情報を関わりの中で気づくことはできなかったのか</li><li>・キーパーソンであった娘の意向を家族間で共有できてない・キーパーソンの娘が急逝したことで状況が変わった</li><li>・一度の方向性の話し合いだけでなく、病状の変化、社会的変化の度に話し合いが必要</li><li>・終末期の状態に対する家族に対しての説明とそれに対する家族の理解は十分にあったのか</li><li>・施設での看取りの捉え方</li><li>①医師や施設側は看取りにおいてどういった説明をしているのか</li><li>②輸血が必要になった時点で再度孫や本人に確認をとっているのか</li></ul> <p>&lt;リハビリネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今後について長女以外を含む家族で話し合っておくこと</li><li>・入所時だけでなく、数か月に1度の頻度でご本人の意思を確認すること(意向の変化の確認)</li><li>・施設で看取りたいというのが、娘様1人だけの思いだけになっている・急変時の対応について話し合い、方向性を決めておくこと</li></ul> <p>&lt;ケアマネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本人の意向が確認できていない、施設看取りは娘の希望。・長女以外の家族の意向が確認できていない、家族間で意向の相違がある。</li><li>・本人の言う「その時」を、状態が変わるごとに確認できると良かった。</li><li>・本人が意思を伝えられない時にだれが意思決定するのか家族内で決めておけると良かった。</li></ul> <p>&lt;小規模多機能部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家族間で話がまとまっていない。・長女任せであった。</li></ul> <p>&lt;保健福祉部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本人の意思確認ができていない。※本人と家族の希望は合っていたのか。・家族全体での意思確認（統一）が出来ていない。</li><li>・家族も特定の人に負担がかかってしまう。家族全体で考えられるような支援。・キーパーソン変更に伴う意志決定支援。</li><li>・キーパーソンが変更になった時点で方針を再確認する必要があった。</li><li>・本人、家族が「看取り」を理解することが出来ていなかった。⇒「看取り介護」の今後の経過と状態や対応の説明をする機会を設ける必要があった。</li><li>・次女の関わりが見えず、キーパーソンの長女に負担が多くなっていた可能性がある。</li><li>・急逝したキーパーソンであった娘の意向を孫がどこまで理解できていたのか。</li><li>・長女以外の家族への相談や理解促進のための説明や共有ができていなかった。</li><li>・状況が変化した時に次のキーパーソンへ引き継ぐなどの場合に備えた意向確認できる文書の整備。</li><li>・本人の意思確認をいつ誰がするか決まっていなかった。</li><li>・死への過程を家族が認識できておらず、家族が死への状態変化を受け入れることができずに回復治療へ向かってしまった。</li></ul> <p>&lt;グループホーム部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・入所時の意思確認から急搬されるまでの半年間に「その時でない・・・」の「その時」とはどんな時なのか</li><li>・本人との話し合いや家族間の話し合いが出来ていないので意向の統一が出来ていない。・看取りに対しての知識がない</li><li>・救急搬送しなければ施設で看取れた。</li></ul> <p>&lt;施設部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・キーパーソン（長女）のみが関わっており、家族間で情報や意向の共有がされていなかった。</li><li>・キーパーソン（長女）と今後の方向性を話している時に、家族間で情報や意向の共有ができていないか確認する必要があった（関わる職種全てが、面会状況やキーパーソンとの話から家族背景を指摘できた可能性がある）。</li><li>・終末期の症状について家族にどこまで説明出来ていたか。・本人の意向を再度、その時々確認が必要であった。</li><li>・キーパーソンの長女だけでなく、他の家族にも説明し同意を得るべきであった。</li><li>・孫がキーパーソンになってから、予測し得る状態の変化等を説明出来ると良かった。またその際の施設で出来ることと出来ないことを説明する必要があった。</li></ul> <p>&lt;ディネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・血中酸素濃度が低下した時の対応で在宅酸素療法や経鼻酸素の選択肢はなかったのか。</li><li>・長女との同時に本人の同意を得る必要があったのではないか。・キーパーソンが長女の時点で他の家族の意思確認が必要であった。</li><li>・キーパーソンの急な変更により意思の統一が出来ていなかった。</li><li>・施設での看取り：できるところまでの定義が必要で元々のキーパーソンは施設での看取りを希望していた。</li><li>・キーパーソンが娘だけであったので、親族の理解と協力を求められる体制が必要であった。</li><li>・キーパーソンが変わり介護の見取り方針が定まっていなかった。</li><li>・施設入所の際の意思決定の内容がはっきりと決まっていなかった。</li></ul> <p>&lt;ヘルパーネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・看取りを行うには、本人の状態が安定していることが一つの条件となる。</li><li>・「看取りをしたい」、「看取ってもらいたい」と本人や家族の意思が一致していたとしても急変時にはその思いが叶わなくなってしまう。その可能性が十分にあることを考え、看取りをどのように行うかを考えなくてはならない。</li></ul>
--	---

## 看取り事例（施設②）

キーパーソンが変更となり、希望である施設の看取りが出来なかった事例

各部会提出内容

目 指 す 姿 の 達 成 に 必 要 な 要 素	<p>&lt;薬剤師部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・キーパーソンの長女が急逝した時、残る血縁者である次女を含め、もう少し積極的に話し合いを勧め今までの経緯と今後の予想出来る状態、またその対処について了解を得る必要があったと思われる。又キーパーソン変更の際には本人との関係性などを考慮し熟考することが必要であるとする。</li></ul> <p>&lt;訪問看護ネットワーク部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一度急変した時に意思表示ができる状態であれば、本人の意向を再度確認する</li><li>本人の意思が明確でなくても、関わりの中で情報収集をおこなっていく</li><li>確認した意思はキーパーソン以外の家族間でも共有してもらう様働きかける</li><li>・急変時や看取りの状況を家族に説明し、対処方法を十分に説明し、家族の気がかりや価値観を引き出す。</li><li>娘亡き後残された家族の気持ちに寄り添い不安の軽減や家族との関係性を築く</li><li>・一旦看取りの方法を決めたとしても、実際に現実的となってくると家族の心情が変化することはある。訪問の際にコミュニケーションをとり、関係形成をしつつ、家族も受け入れられるように支援することが必要</li><li>・ACPの実施</li><li>実際には“その時”をイメージして結論を出してもらうことは大変難しい。そのため、結論に至る過程を重要視し、その人の人生観や、家族の本人に対する思いなどを引き出していき、本人・キーパーソンだけでなくその他の家族一緒に、ゆっくりと「人生の最終段階をどう過ごすか」についてイメージしたり共通認識をもてるような環境を作ること</li></ul> <p>&lt;リハビリネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・定期的に書面等で意思の確認をすること・ご家族で看取りについての考えを共有すること</li><li>・時間経過とともに考えが変わっていくこともあるので、看取り等の意思確認を定期的に行うこと</li><li>・家族と各専門職が円滑な連携が取れる体制を作ること・有事の際の対応を細かく決めておくこと</li><li>・キーパーソン以外の協力状態の確認・本人の意向を確認すること</li></ul> <p>&lt;ケアマネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ACP) 本人、家族の意向の確認をその都度行う。いざ治療が必要になった場合どこまでの医療を望むのか確認する。</li><li>本人に意思確認するのが難しければ本人の意思決定支援を行う。又は家族や親族が代弁者となる。</li><li>キーパーソンだけでなく他の家族にも意向確認し、方向性を話し合い共有する。</li><li>・看取りの体制) 本人の意向をくみ取り、施設が対応できることとできないことの説明。</li><li>予後予測など今後起こりうる場面場面で家族がイメージできるようにしっかり説明する。</li><li>協力医療機関の状況や緊急時の対応などの説明と家族の不安を聞き取る。</li></ul> <p>&lt;小規模多機能部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本人も含め、家族間の意思統一。・皆が公開しない様に調整する人物が必要。</li></ul> <p>&lt;保健福祉部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ご本人が少しでも元気なうちに、専門職（医療・介護など）が入ったの話し合いの場（意思確認）を設ける。</li><li>・本人の意向を尊重できるように家族をサポートする支援</li><li>・家族を支える役目を果たす者（ケアマネ？ 施設相談員？）を明確にしておく。どの場面であっても家族だけで決めることは難しいと思われるが、その都度の場面で専門職の姿が感じれない。・治療、看取りの意向を本人、家族含めて意思確認をする</li><li>・希望であった施設の看取りを実現できるような専門職間（本事例の場合、施設と病院）との連携・「決定疲れ」を起こさない支援</li><li>・デスクカンファレンス等がかかわった専門職もふり返って考えていく姿勢</li><li>・本人の要望を確認し、家族との要望の相違があれば話し合う必要がある。・本人の意思を確認し、家族へ伝えること。</li><li>・病状の変化、急変時のそれぞれの段階における家族への説明と方針（看取り）の確認と関係者間での共有</li><li>・施設にて看取りが出来る体制（スタッフ等の確保）</li><li>・本人の死や最期をどのように迎えるかを考えたり、イメージする機会を持ち、家族と共有すること。家族全員に ACP について理解してもらえるような機会の創出。</li><li>・家族に対して、急変した時の対応や経過の理解も含めた看取りについての説明。</li><li>・事前に ACP を作成しておき、キーパーソンが変更になっても本人の意向が尊重されるような体制づくり。</li><li>・家族間での情報共有や看取りについての相談、話し合いができる支援機関の体制づくり。</li></ul> <p>&lt;グループホーム部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本人の意思がわからないので、本人の希望に添えていたのか確認が必要。・家族の意思決定が重要なので意見がブレない様に話し合う事。</li></ul> <p>&lt;施設部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家族＝キーパーソンとは限らないという視点。・家族背景を考慮し、今後の方向性を決めていく。</li><li>・入所後も、折りにふれ、本人や家族の意向を再確認しながら、希望に沿える様に支援していく取り組みが必要である。</li><li>・嘱託医、職員からご本人の病状、予想される症状、終末期への丁寧な説明を行い、本人、家族の意向を共有していく。</li><li>・全員に対して書面での同意を得ておくこと。</li><li>・キーパーソンの変更時や同意を得る時等には、次女も来所し本人の状態と一緒に確認する機会を持つ。</li></ul> <p>&lt;ディネット部会&gt;</p>
---	---

## 看取り事例（施設②）

キーパーソンが変更となり、希望である施設の看取りが出来なかった事例

各部会提出内容

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・長女の体調も含め今後について家族間で話し合う場が必要であった。</li><li>・孫に今までの経緯は説明しているが、施設の看取りから救急搬送を行っているため看取りの説明を再度行えていなかった。</li><li>・介護者間の介護方針の共有が必要であった。・本人の意思を確認して記録として残す必要がある。</li><li>・看取りの意思決定を定期的に更新する必要がある。</li></ul> <p>&lt;ヘルパーネット部会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・起こりうるすべてのリスクや状況を考え、いくつかの選択ができるような状態にしておくことが必要かと思われる。</li></ul> |
|---|